

地域ケアにおける理学療法士の役割

——兵庫県但馬長寿の郷の活動を通して——

竹内 さをり

The Role of Physical Therapist in Community Care for Tajima-choju Village

Saori TAKEUCHI

Abstract: The number of newly qualified physical therapists is now approximately 10,000 every year. Further expansion of the areas of duties for physical therapists will be necessary to accommodate this rapid rise in the number of physical therapists. To date, three-quarters of the physical therapists work in medical institutions and only a few work in regional care centers.

This paper presents the activities of Tajima-choju Village in Hyogo prefecture, where physical therapists are extensively involved in community care, and also describes the role of physical therapists in community care.

抄録：理学療法士は年間 10,000 人が新たに誕生する時代となり、今後は急増する理学療法士の業務職域の拡大が必要であると言われている。これまでの理学療法士の勤務施設は医療機関が 3/4 を占めており、地域ケア現場で勤務する理学療法士は未だ少ない現状にある。

本論では兵庫県北部地域において、理学療法士が広域的に地域ケアに携わっている兵庫県但馬長寿の郷の活動を紹介し、地域ケアにおける理学療法士の役割について報告する。

1 はじめに

1966年に第1回理学療法士国家試験が行われ183名の理学療法士が誕生し、2006年8月現在、理学療法士免許登録者数は52,088名になった。2006年の理学療法士養成校入学者数は10,647人であり、今後は1年毎に10,000人の理学療法士が生まれることになる。このような現状について中尾¹⁾は近年、理学療法士の養成供給力、需要はともに急速な進展を辿り、業務職域の拡大がなされてきているとしている。これまでの理学療法士勤務施設は医療機関が74.5%（表1）と最も高い状況にあった。地域ケア現場で勤務する理学療法士数は未だ少ない現状にあるが、我が国の高齢

表1 施設分類別会員数（2006年8月現在）

| | 会員数 | (%) |
|------------------|-------|--------|
| 医療 | 32455 | (74.5) |
| 医療福祉中間施設 福祉施設 | 3885 | (8.9) |
| 介護老人施設 | 217 | (0.5) |
| 身体障害更正援護施設 | 244 | (0.6) |
| 児童福祉施設 | 1073 | (2.5) |
| 教育研究施設 | 1697 | (3.9) |
| 行政関係施設 | 367 | (0.8) |
| 保健（健康産業） | 116 | (0.3) |
| その他（自宅含む） | 3517 | (8.1) |
| 保留（不明者） | 438 | (1.0) |

日本理学療法士協会資料

化の進展に伴い、今後地域ケア現場で働く理学療法士の活躍が期待される場所である。

本論では、理学療法士が広域的に地域ケアに携わっている兵庫県但馬長寿の郷（以下、但馬長寿の郷）の活動を紹介します。地域ケアにおける理学療法士の役割について報告する。

2 兵庫県但馬地域の概要

1) 但馬の保健医療福祉をとりまく状況

兵庫県は、1994年に理想的な高齢社会を構築する拠点施設として但馬長寿の郷を兵庫県北部地域（以下、但馬地域）に設置した（図1・表2）。

当時の但馬地域には次のような特徴・課題があった。

①高齢化率が県下でも突出して高い。

②人口・財政規模の小さな19市町によって構成される地域である。

③地勢的に日本海に海岸線をもつ山間地で、自家用車以外での交通手段が限られている。

結果的に、但馬地域では保健医療福祉サービスの提供に非効率な面が多く、サービスの質を高めることが困難であった。一方で、小さな自治体のメリットとして、住民間の共助意識は高く、また、サービス利用者の把握などで細やかな対応ができるという面も合わせ持っている。

2) 但馬の保健医療福祉の特徴

但馬地域は、山間地の特徴として谷筋を超えた交通

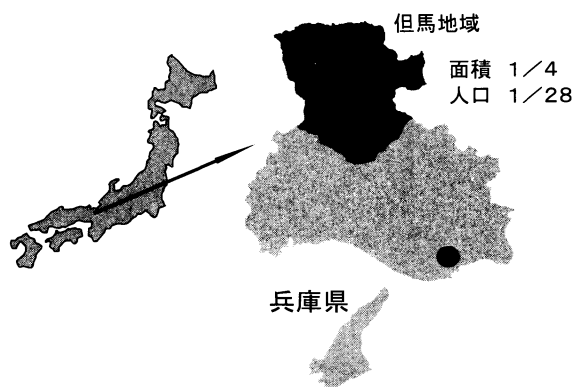


図1 兵庫県但馬地域

表2 但馬地域の人口など（2006年2月1日時点）

| | 全国 | 兵庫県 | 但馬地域 |
|--------------------------|-------------|-----------|---------|
| 人口（人） | 127,767,994 | 5,592,509 | 190,840 |
| 面積（Km ² ） | 377,873.06 | 8,392.03 | 402.98 |
| 人口密度（人/Km ² ） | 338.1 | 666.4 | 473.57 |
| 高齢者人口（人） | 25,672,005 | 1,105,918 | 53,568 |
| 高齢化率（%） | 20.1 | 19.8 | 28.1 |

が不便で、利用者が保健医療福祉サービス機関へアクセスするのに時間とコストがかかる。また、日常生活圏においても急峻な傾斜地が多いことから、降雪地域であるということも相まって、移動弱者にとって閉じこもりに陥りやすい状況にある。

①保健

一人の保健師が受け持つ住民人口が全県では6,765人であるのに対して、但馬地域では2,277人と約3倍の保健師密度があり、住民の健康状態の把握などで他の地域に比較して恵まれた環境にある。

②医療

但馬地域は北部と南西部にそれぞれ400床規模の中核病院を擁し、加えて19市町中7町が50床～150床の中小病院を設置し運営している。ただし、過疎地の例にもれず専門医や診療所医師の不足のみならず、各中小病院勤務医師の確保に難渋しており、へき地医療支援機構のもとに医師確保に努めているが過去から現在にいたりその見通しは厳しい。

一方で、但馬地域の医療は、公立病院、公設診療所に依存するところが大きく、保健医療福祉の積極的な連携が行いやすいということもある。

③福祉

男性では4町、女性では6町が県内長寿自治体上位10位以内に入っており、県内では長寿を達成している地域と言える。また介護認定を受けて在宅介護を受けている者の割合が61%と県内の圏域では最も高水準である。

3 但馬長寿の郷における地域ケア関連事業

但馬長寿の郷では、但馬地域の19市町（現3市2町）に理学療法士・作業療法士を派遣し、市町の地域ケアサービスを支援する専門的人材派遣事業や、地域ケア関係者、一般住民に対する介護研修等といった直接的サービスを実施している。さらに、市町と協力して、生きがいに満ち、安心して暮らせる地域づくりに向けた様々な事業を研究・企画し、実践する機能を持っている。前述の直接サービスにより蓄積された知見を政策の立案に反映できることも特徴といえる。

但馬長寿の郷では、1994年より施設建設の準備とともに地域ケアに関連するソフト事業を展開してきた（図2・3）。その主なものについて、専門的人材派遣事業、住宅改修・福祉用具の利用促進事業、その他の事業に分けて報告する。

表3 専門の人材派遣事業派遣日数

| 年度 | 派遣日数(日) | 理学療法士・作業療法士数(人) |
|-------|---------|-----------------|
| 平成6年 | 227 | 2(うち理学療法士2) |
| 平成7年 | 481 | 5(うち理学療法士4) |
| 平成8年 | 896 | 8(うち理学療法士6) |
| 平成9年 | 1,145 | 10(うち理学療法士7) |
| 平成10年 | 1,247 | 11(うち理学療法士8) |
| 平成11年 | 1,298 | 12(うち理学療法士8) |
| 平成12年 | 1,270 | 12(うち理学療法士8) |
| 平成13年 | 1,331 | 12(うち理学療法士8) |
| 平成14年 | 1,258 | 10(うち理学療法士7) |
| 平成15年 | 1,406 | 12(うち理学療法士8) |

を担当するに至っている(表3)。

この事業において理学療法士は、住民に対して理学療法といったリハビリテーションサービスを提供できるという直接的効果に加えて、市町の枠を超えて広域的に地域ケアサービスに関わることにより、例えば、地域ケアに関する理念や考え方、制度の策定や運用等の手法面で新たなアイデアを生み出し、それを市町にフィードバックできるという効果もある。

また、市町派遣の中での用務も、介護予防や地域づくり、地域ケアスタッフの資質向上に関わるものにも発展し、これらが後述する様々な事業を構築する原動力になったともいえる。

2) 住宅改修・福祉用具の利用促進事業

但馬長寿の郷では「誰もが住みやすい住まいづくり」を提案するモデルルーム、約900点の福祉用具を備える展示コーナー、視覚体験や車いす体験のできる体験コーナー、最新の福祉用具情報の検索が行えるライブラリーを備えた展示場を整備し、理学療法士がその運営に当たっている。

住宅改修・福祉用具の利用促進に関わる事業について紹介する。

①環境整備やケアサービスについての相談の対応

但馬長寿の郷の展示場は、環境整備や地域ケアサービスの相談窓口としての役割を担っている。展示場には理学療法士・作業療法士が常駐して相談に応じるとともに、相談者が市町の地域ケアサービスにつながる窓口としての機能も有している。

さらに展示場の機能だけではなく、専門の人材派遣事業とつながった実践的な取り組みを行っている。展示場には約670点の福祉用具を備える倉庫を持ち、この福祉用具を専門の人材派遣事業において実際のケア現場に持ち出し、試用、貸し出しを行っている。この倉庫機能と専門の人材派遣事業が重なりあって、実践的ケアの実現が可能となっている。利用者にとって初

めて見聞きする福祉用具は、実際に使ってみてはじめてその便利さを実感できる。この機能は、福祉用具や住宅改修の活用をすすめていくうえで重要な役割を果たしていると考えられる。

②福祉用具の利用・住宅改修の普及

見学、研修を目的とした展示場への来場者に対して「福祉用具や住宅改修が誰にとっても便利で快適なものである」という考えを普及するための意識啓発を行っている。

③地域ケアスタッフに対する技術提供や知識を深めるための研修の開催

④福祉用具メーカーやディーラーへの提案

福祉用具メーカーやディーラーと協力し、福祉用具の使用者や使用環境にとって有効な福祉用具の開発や改良を検討し、提案を行っている。

⑤建築士と協力した住宅改修相談会の開催

環境整備に関わる職種として建築士との連携は重要であるが、建築士とケアサービス提供者との連携頻度は少ない。また、具体的に相談できる場所がないといった地域の状況を把握し、但馬地域の建築士と連携し、住民や地域ケアスタッフからの相談に応じる相談会の運営を行っている。

また、この相談会を継続する中で住宅改修の相談窓口であるケアマネジャーが地元の建築士とつながる機会が無いということが分かった。その機会をつくるために、地域ごとに建築士とケアマネジャーが顔を合わせる研修会を兼ねた交流会を開催している。

住宅改修の専門的・具体的な相談ができる場として、この相談会の効果は高い。相談会において建築士は、図面にどのような改修を実現することができるのかといった具体案を示す。理学療法士はその図面に示された環境の中で、現在の暮らしが新たにどのような暮らしや動きになるのかといったことを伝える。建築士と理学療法士、双方の提案が交わることで、具体的なイメージを提案できる。相談会はその機会を提供できる場として有効な役割を果たしているといえる。

さらに相談会の場合は、建築士と理学療法士がじっくりと顔を合わせることで、相互がお互いの専門性に対する理解を深め、情報を交換する場所としても有効な機会となっている。

⑥シルバー人材センターと協働する福祉用具の製作・供給事業

シルバー人材センターに登録する高齢技術者に対して、福祉用具を作製するための研修を実施し、供給ルートを含めた整備を行うといった事業を実施してい

る。現在、この事業において研修を受けたシルバー人材センター会員によって、利用者に合った踏み台の作製と設置、高齢者や障害のある方が着やすい衣服の作製、供給を行えるようになった。主に、本事業は作業療法士が実施しているが、理学療法士が中心となり、車いすのメンテナンス技術に関する企画・研修を担当している。研修受講者は高齢者福祉施設における実習を行い、理学療法士が施設側と相談しながら供給ルートの検討を行っている。

この事業を通して、踏み台や衣服などオーダーメイドの福祉用具を供給することが実現した。また、これまで接点の無かったシルバー人材センターと地域ケア現場との連携を図ることができた。

さらには、この事業は研修参加者であるシルバー人材センター会員の物を作る姿と技術に高い専門性を感じる機会にもなった。現在の社会では、高齢者の活動現場は限られた範囲に留まっており、長年の経験により積み重ねられた専門性を発揮できる機会は少ない。本事業はその専門性を新たに発揮できる機会を提供でき、高齢者の生きがい創造の環境づくりを実現できるものであると考える。

3) その他の事業

①失語症キャンプの開催

本事業は、脳血管障害によるコミュニケーション障害者とその家族を対象とした泊まり込み研修事業である。

この事業は、失語症をはじめとするコミュニケーション障害の方々とその家族が「安心して楽しめる環境」の中で、いかに“参加者自身に自分の能力に気づいてもらうのか”を考えた運営を行っている。

失語症キャンプのスケジュールは図4に示すとおり

参加者 但馬管内のコミュニケーション障害のある方とその家族 15 家族 30 人程度を参加対象とする
温泉旅行開催場所 浜坂温泉保養荘など
温泉旅行プログラム例

| 1 日目 | 2 日目 |
|--|--|
| バスで温泉宿へ 温泉宿到着 ●当事者：言語聴覚士によるグループワーク 家族：言語聴覚士による講義 ●言語聴覚士との個別相談 ●温泉入浴 ●宴会 ●2 次会 | ●朝食 ●座談会 ●観光 遊覧船乗船 海の文化館見学 ●昼食 バス移動 解散 |

図4 失語症キャンプ事業内容

である。旅行は人にとって非日常的な場所である。それだけに参加者に与えるストレスは大きい。見知らぬ人と見知らぬ土地で行動をとることは容易ではない。だからこそ、ひとつひとつのプログラムについて事前に検討を重ねて臨んでいる。まず、参加者の身体・生活状況の評価からはじまり、食事の内容、バスや宴会、食事の座席、スプーンやフォークに対する配慮を行う。また、宿泊先を管轄する消防本部や関係機関との連絡調整も行う。ごく普通の旅行を演出するために理学療法士は水面下での安全対策を徹底的に行い実施している。

この事業は参加者にコミュニケーション障害に対する知識や対応の技術を提供するのみではなく、「経験不足からくる自信喪失」や「介護者による困り込み」を解消することができると考えられる。同じコミュニケーション障害をもつ参加者同士の関わりから「できる」という自信を得、実際の旅行での成功体験を通じて「できた」という自信を得ることができる。また、スタッフや旅行先での人との関わりを通じて「受け入れられた」という自信を得ることで、社会参加へのきっかけづくりにつながっていると考える。実際に旅行終了後、全く外へ出ることのなかった人が家族と共に外出するようになり、介護保険サービスを利用されるようになるなど、外との継続的な関わりへと発展している方も多い。

②地域ケアセミナーの開催

但馬長寿の郷では、今までの実践的活動を通じて蓄えた地域ケアに関わる様々な知見を活かし、保健医療福祉系学生や医師、地域ケア初心者等を対象としたセミナーを行っている。受講者が地域ケアについての理解を深め、その資質向上を図ることを目的としている。

セミナーでは、単に方法論を伝えるに留まらず、地域ケアサービスの提供に必要な考え方を講義や演習、同行訪問などを通して伝えている。参加人数は1名～数十名の団体、期間も1日から2ヵ月間と様々なプログラムで対応している。

このセミナーは、保健医療福祉系学生や地域ケア従事者に対して、地域ケアに対する意識づけを図り、現任者教育の役割を果たしている。学生については地域ケアに係る将来の人材確保の一助となる。また、地域ケアの拠点施設としての役割を果たすことができ、県内外の地域ケア関係者の資質向上を図ることができると考える。

③地域ケア研究大会の開催

但馬圏域では地域ケアに関わる機関や職種がそれぞれ多様な活動を展開しているが、他機関や他職種の取り組みに触れる機会は極めて少ない。そのため、地域にある社会資源の知識は乏しく、連携して活動することが少なかった。

そこで、保健・医療・福祉・教育などの多職種が一堂に会し、パネルディスカッションや講演会、ポスター発表を通じて活発に意見を交換し、お互いの知見を広めることを目的とした研究大会を年に1度開催している。毎年、100名以上の参加者と20題以上の演題発表が集まり活発な議論が行われている。

パネルディスカッションや特別講演では、保健・医療・福祉に関する最新の情報を得ることができ、但馬地域における地域ケアの現状、課題を明らかにし、その解決策を探る機会を得ることができている。

ポスター発表では、各機関や職種の活動や先駆的な取り組みが紹介され、但馬地域にある保健・医療・福祉・教育等のあらゆる地域ケアサービスを一度に目にすることができる。また、各機関の実践報告や先駆的な取り組みの報告を通して参加者同士が活発に意見を交換し、日頃の業務の見直しや新たな事業展開のきっかけを得ることができる機会となっていると考える。さらに、多職種が一堂に会し意見を交換することにより新たな連携のきっかけにもなっていると考えられる。

4 ま と め

但馬長寿の郷の理学療法士の活動を通して、地域ケアにおける理学療法士の役割について考察する。

1) 個へのアプローチを行うこと

地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割として下斗米²⁾は①障害を把握する、②生活の援助目標を設定する、③理学療法を行う、④基本動作練習をする、⑤必要な福祉機器や家屋改造を考え生活の環境整備をする、⑥他の専門職との連携を図るとしている。

備酒³⁾もまた、地域ケアで理学療法士が中心となつて担うべき役割は①身体機能に関する評価と指導、②基本動作とADLに関する評価と指導、③介護負担に関する評価と介護指導、④住居や周辺環境に関する評価と指導などであるとしており、①②が何より重要で、①、②に関する役割を無くしては理学療法士とし

て人の生活を支援する役割は果たせないとしている。

理学療法士として個人の状態を捉え、目標を設定し、理学療法アプローチを行うことは基本的な事項である。さらに、地域ケアにおける理学療法アプローチは暮らしの場面でを行うため、基本動作を含む日常生活活動や環境整備についても効果的な役割を担うことができる。但馬長寿の郷では、理学療法士が専門の人材派遣事業における訪問や予防事業、福祉用具展示場での相談などにおいてこれらの役割を担っている。

2) 個から集団への支援につなげること

保健・福祉領域で理学療法士に求められる能力として久富⁴⁾は直接的な支援から集団的な事業の企画・立案・実施などを行うことと述べている。但馬長寿の郷では、専門の人材派遣事業を通して個への直接的な支援を行うとともに、その個から得られたニーズをもとに集団的な事業の企画・実践へとつなげている。先述の住宅改修相談会、失語症キャンプ、地域ケア研究大会の実施など、そのいずれもが地域の中で個々人に相対する中から生まれた事業である。

理学療法士のもつ、個を評価し、アプローチを実施するという能力は、個のニーズを把握するうえで多いに役立つ。また、事業という集団へのアプローチを実践するうえでも、地域の状況や関わる機関の状況を把握することはそれぞれの状態を評価することであり、理学療法士のもつ評価能力はここでも発揮できる。

3) 他職種との連携を図ること

地域リハビリテーションの実現において職種間連携が重要であるという点については、多数の報告がなされている⁵⁻⁷⁾。

但馬長寿の郷において様々な事業を実現するうえでも他職種との連携は欠かすことができない。村井⁸⁾はネットワーク形成には、1人の熱意から感化され、熱意のある仲間が増え、交流が始まり、1つのグループが形成されると述べている。誰かが連携の場を作ることを待つのではなく、自らがその機会をつくるという意識が、新たなネットワークを形成する。さらに、そこから生まれた情報をもとにシステムを創造することが大切である。但馬長寿の郷では、相談会の運営を行うために理学療法士が何度も建築士会の会合へ出向き、建築士の状況を聞き取り、またこちらの状況を伝えることを行った。シルバー人材センターとの連携では、シルバー人材センターへ出向き、実施したいと考える内容を伝え、どのような人材が適しているのか、

供給手法の検討も含めて、何度も話し合いの機会をもつことで事業の実現に至った。理学療法士自らが、集まる機会を作り、お互いの顔が見えるという関係性を作ることが他職種を理解する機会になり、連携をつくる機会になると考える。

備酒⁹⁾はチームワークの具体的な確立にはリーダーシップを発揮できる機関が必要で、もちろんこのような機関で重要な役割を担うのは理学療法士であるとしている。但馬長寿の郷では理学療法士が中心となり、地域ケア研究大会をはじめとする事業を通して、様々な職種間連携の場を作っている。理学療法士と他職種の連携に限らず、様々な職種間をつなぐ連携を実現することも地域ケアにおける理学療法士の役割として重要であると考ええる。

5 おわりに

地域ケアにおける理学療法士の役割について、但馬長寿の郷の活動を通してその一例を報告した。

但馬長寿の郷は1994年にスタートし、2008年には15年目を迎える。今回報告した各種の事業も、市町や当事者での運営を目指し、但馬長寿の郷が主体になるのではなくサポート的な役割を担うべく、新たな方向性を模索しながら取り組んでいる。

鈴木¹⁰⁾は理学療法士の職域拡大が叫ばれて久しいが、職域拡大と共に就業内容の拡大及び変革に向けた認識を理学療法士一人一人が持つ必要もあると述べている。個人で新たな改革に挑むことは優しいことではないが、具体的な可能性を見出すためにも、本報告がその一助となれば幸いである。

引用文献

- 1) 中尾久長：リハビリテーション関連職種の現状と展

望－理学療法士－. 総合リハビリテーション 2007; Vol. 35 No. 6: 540-544

- 2) 下斗米貴子：地域リハビリテーション Ver. 3 大田仁史編著 浜村明德 下斗米貴子 澤 俊二 2006; 株式会社三輪書店: 44-46

- 3) 備酒伸彦：地域生活を支える理学療法士の役割 理学療法学 1997; Vol. 24 No. 8: 433-435

- 4) 久富ひろみ：新人教育－保健所など行政での教育の現状と課題 理学療法 2006; Vol. 23 No. 5: 834-839

- 5) 伊藤隆夫：地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割 理学療法学 1998; Vol. 25 No. 8: 523-52

- 6) 山本和義：介護保険時代の新地域リハビリテーション 厚生科学研究所 1998; 16-19

- 7) 浜村明德：地域リハビリテーションと介護保険 リハビリテーション医学 1999; 36(6): 377-380

- 8) 村井千賀：地域リハビリテーションにおけるネットワーク形成と連携 Quality Nursing 2003; Vol. 9 No. 4: 35-40

- 9) 備酒伸彦：地域リハビリテーション 理学療法湖東 2003; Vol. 23: 16-19

- 10) 鈴木英樹：札幌市の介護予防事業の紹介と本事業への行政理学療法士の参画と課題に対する考察：北海道理学療法 2003; Vol. 20: 73-78

参考文献

兵庫県但馬県民局但馬長寿の郷 高齢者ケアのための教本－兵庫県但馬長寿の郷の活動を通じて－平成17年3月

財団法人日本公衆衛生協会 地域リハビリテーションを中心とした高齢者の地域ケアシステム構築に関する調査研究事業「寝たきり原因及び経過の実態把握と予防対策に関する調査検討，地域リハビリテーション中核支援センターのあり方－兵庫県但馬長寿の郷事業を通じて－」報告書 平成16年3月

財団法人日本公衆衛生協会，社団法人日本理学療法士協会，日本作業療法士協会編：平成13年度地域保健総合推進事業「地域保健・福祉活動における理学療法・作業療法の効果と今後の地域リハビリテーション事業のあり方に関する研究」報告書，平成14年3月